



## 灯火具コレクション

電灯が普及する以前の「あかり」の道具で、主に江戸・明治期に使用されたものが多い。全部で488点あり、ひょうそく・燭台・行灯・ランプなど灯火具の変遷をたどる貴重な資料といえよう。

とくに、ひょうそくは、菜種油や棉実油などの植物油を入れて、それに灯芯を浸してあかりをともす陶製の灯火具で、その形・構造は用途に応じて合理的かつデザイン的に工夫されている。

この灯火具コレクションは、郷土史研究家であった故岸間芳松氏の遺志により寄贈されたもので、ひょうそく178点は国指定重要民俗文化財に、他の310点は市指定文化財になっている

(蒲郡市郷土資料館 学芸員 小笠原久和)

## 目 次

- 昭和58年度愛博協県内研修を終って ..... 2
- 県内研修会に参加して ..... 3
- 新加盟館紹介 ..... 4

## 昭和58年度 愛博協県内研修会を終って

9月6・7日の両日瀬戸市川平町の県労働者研修センターで、県内21の館園26名を迎えて開催された県内研修会は、新規加盟館の参加も多く、特に今回は若手学芸員の熱心な研修が目立った会合であったと思われます。以下研修内容の概略を御報告します。

今回の研修会は、昨年の「物の見せ方」に続き、展示を通しての「博物館等における教育サービスのあり方PART 1『解説』」について諸々の分野より研修を行うのが目的で、6項目にわたって事例発表をお願いし、翌日は各項目について意見交換を行った。

(1)視聴覚による解説——リトルワールド学芸員鹿野勝彦氏より、リトルワールド開館にいたるまでの視聴覚(特に映像)の展示への導入問題、そのウェート、又開館後の様相等詳細に発表があった。

特に当館が設置している60余台の映像は、展示物だけでは理解できない要素を補う重要な展示素材で、単なる展示品の補助的意味では無く、もっと積極的素材である事を示し、将来性においても、今後博物館等に多く利用されるものであろうと結ばれたが、参加者より、映像展示が一方通行の情報源であり、入館者自身の選択の可能性、映像機材の経済面、映像作製に関する学芸員の積極的参加の問題、映像の資料的価値等について質問があった。これに対し同氏より将来改善できる可能性は充分あるし、その方向に進んでいくであろうとの回答があった。

博物館等における実物展示と映像は、博物館史の上で将来共に論議をよぶところではあるが、会回も技術的側面と同様に話題の中心であった様に思う。

(2)オリエンテーションによる解説——名古屋市博物館井上光夫氏より、主として同館の小・中学生を中心とした学校教育との連携についての発表があった。

同館が将来の博物館活動を考慮し、特に小学生を主体とした学校教育に積極的参加をしようとする具体例について話すと、参加者より学校教育と博物館の結び付きが非常に弱く、その方法・手段についての質問があり、また協会としても総合的対処方法を検討する必要があるのではないか、との意見もあり、学校教育と博物館活動について意見が集中した感があった。

(3)外国語による解説——内藤記念くすり博物館館長青木允夫氏より、外国語解説を取り入れていった経過や、その間の色々の問題点について発表があった。

同館は年間入館者数の約10%が、外国からの訪問者

で、その多くは薬学関係者で占められている。このことは特に同氏が資料収集を我国に限らず諸外国へも求めた事により、資料内容が他館に比較し、世界性をもった事にも起因している。これについて参加者の中より、博物館の将来性を考えて、外国語解説への取り組みを実施しなければならない、との意見もあったが、多くは現状での難しさを考え、ボランティア等による協力を求め、展示の概要が理解できるだけの努力をすべきであるとの意見が有力であった。

この件に関しても、愛博協として検討課題の一つとすべきである様だ。

(4)口頭による解説(個人)——岩田洗心館館長代行岩田正人氏より、当館における口頭解説による具体例をはじめて、博物館における物とは何か、と言う氏の美術論を通して口頭による解説の重要性を発表。

参加者より、個人解説による入館者の対処方法、可能入館者数、その効果、具体的解説内容等につき質問があったが、同館が美術館であり入館者の意識自体に差があること、その口頭解説は押しつけの教育サービスではない事を強調し、そして展示品を通して人と人の輪が拡がり、かなりの情報源になっている事と、入館者それぞれのニーズに対処できる事が利点であるとし、また一方通行の情報伝達にならない点も、他の解説と異なる点であると思われるが、これには豊かな経験と人的要素を必要とする為、博物館teacher的方向も考え合わせる必要があるのではないか、との意見もあった。

(5)口頭による解説(団体)——香嵐溪ヘビセンター学芸員杉山貞幸氏より、同センターの口頭解説による実施状況等の説明とその問題点について発表。

同氏は、個人解説と異なる団体解説の難しさ、特に団体の口頭解説内容を、団体の年齢層のどこに置くか、又団体の意識を如何に口頭解説に注目させるかをあげ、口頭解説の中に体態学習を導入したりして色々と苦心している様子であった。参加者より団体による解説の可能(効果的な)人員、入館者のニーズの対処等に質問が集中したが、同氏は団体意識、それも動きながら、展示品に対する意識を捕える、その事が非常に難しい事であると強調した。

(6)パネルによる解説——三河武士のやかた家康館学芸員堀江登志実氏が、当館のオープンに至る経過をふまえて、資料とのかねあいを考慮に作製した各種パネルをスライドによって紹介した。そしてパネル作製にあたってその内容をどの程度の年齢層に合わせるか、又パネルを資料の単なる補助にするのではなく、それ自体

を展示素材にまで高めてゆく努力を行った等の発表があった。参加者よりパネルの保存問題、展示品とパネルのバランス問題等について質問があった。同氏よりこれ等の問題については、館としても将来どの様に対処してゆくか、入館者の反応等を注意深く見守って行く方針であるとの事であった。

今回の研修会は、教育サービスのあり方として“解説”を課題とし、諸々の具体的方法を踏まえて討議を行ったが、各部の特質の中で、共通の話題として熱心に討議が行なわれた事を御報告し、今後利用者側に立った意見と共に実りある成果のある事を期待したいと思います。

現地研修は「和紙のふるさと展示館」にバス移動し、現地で和紙すきの実演を行い、会員それぞれ“字すき”を行った。初めての“絵すき”。にまでは挑戦できませんでしたが、それぞれ思い思いの字？（中には字か絵か判別不可能）をすき、楽しい現地研修を行い、和紙のふるさと館の展示を案内していただき、現地を離れる。

研修会実施にあたり、色々と御配慮いただきました関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

（山田 記）



## 愛博協研修会に参加して

東海銀行貨幣資料館 工藤洋久

去る9月6・7日に愛知県労働者研修センターで開催された研修会は、初参加の私にとって貴重な体験の2日間でした。

銀行の組織の中で活動している私にとって、他施設の運営状況や活動は外面から眺めるだけで、その内的な面は知る由もなく、また私共で疑問に思っている事柄でも、どこのどなたに伺えば良いか等全く五里霧中でした。今回の参加で担当者間の情報交換が、いかに必要であるかを痛感した次第です。

今回の2日間にわたる事例発表は、各先生方の現場でのご苦労を踏まえ、かつ諸先生方によるほりさげた討論は私にとって非常に参考になり、貴重なご意見ばかりでした。

各館により設立主旨・運営母体・展示内容等は異なっていますも、担当の先生方の職務は共通点が多く、各々の環境においてご健闘されておられる事が、お話をの中に滲み出ているのが充分に感じとられました。

現在の様にマスコミの発達による情報が氾濫し、社会教育のあり方についてかなりの論議が醸し出されている時代になってきますと、知識や情報の選択は個人にゆだねられてきますが、その提供者として、より正確な知識をわかりやすく伝えることは非常に難しい事で、博物館等に従事している私達の仕事も、これらの文化的な一端を担っていると考えられます。それには担当者間の親密な情報交換やノウハウの提供が必要となってくると思います。そこで今後の愛博協の活動に大いに期待している次第です。

これは私の個人的な意見ですが、加盟諸館の具体的な展示・運用システムや機械類の導入についての効果や苦心談等、またテーマを決めて、それに関する参考資料や文献の紹介等を機関誌「東西南北」に掲載していただけますと、より効果的で利用度の高い会報となってくるのではないかと思われます。

取りとめの無い事を書きましたが、誌上をお借りしまして、諸先生方には今後とも御指導の程お願いしますとともに、今後の研修会参加に期待しております。

## 新加盟館紹介

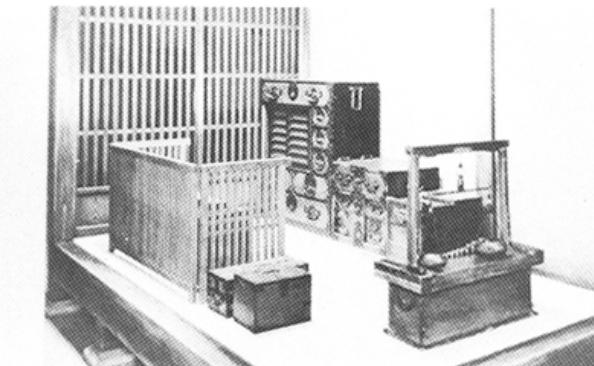
### 岡崎信用金庫資料館

所在地 〒444 岡崎市伝馬通1丁目58  
電話 <0564>24-2367  
交通 名鉄電車 東岡崎駅下車 徒歩約10分  
名鉄バス 篠田公園下車 徒歩約2分  
沿革 岡崎信用金庫資料館は、大正から昭和にかけて岡崎銀行の本店として使われた数少ないルネッサンス式洋風赤煉瓦の由緒ある建物をそのまま保存し、またこれを皆さまの「共同の広場」としてご利用いただき、地域文化の向上に少しでもお役に立つことができますよう開館させていただきました。  
設立 昭和57年11月2日  
施設 地上2階屋階付 延627.93m<sup>2</sup>  
展示室398.69m<sup>2</sup> 収蔵庫16.24m<sup>2</sup>  
事務室32.34m<sup>2</sup>  
開館 10:00~17:00  
休館日 月曜日・祝日・1月1日~1月3日  
入館料 無料



特色 当資料館の建物は、大昭6年に建築された赤レンガと地元の御影石（花崗岩）を組み合わせた本格的なルネッサンス様式の重厚なものであり、日本建築学的に見て数少ない貴重な建築物として保存が期待されている建物です。

館内には、当金庫創業以来の歴史をはじめ、私たちの日常生活に深い係わりをもつ地場産業の分布、江戸時代の城下町岡崎のあきないや両替商の模様、そしていろいろな貯金箱や世界各国のめずらしい貨幣なども展示し、また市民ギャラリーコーナーも設け、商業や金融に係わりの深い展示構成になっています。



### 美和町歴史民俗資料館

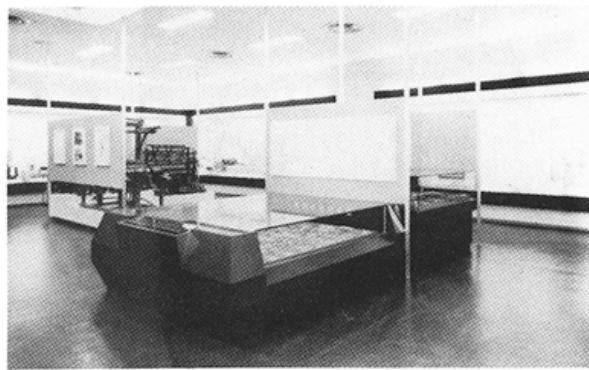
所在地 〒490-12 海部郡美和町大字花正字及地1  
電話 <0560>42-8522  
交通 名鉄電車 津島線木田駅下車 徒歩10分  
沿革 資料館は、昭和43年に発足した美和郷土館に保存されていた幾多の遺品を、町制施行25周年記念事業として建設された当館に収蔵したもので、「郷土の歴史とくらしの道具」「米づくりと昔のくらし」をテーマに民俗資料を中心として保存・展示・調査を行っている。  
設立 昭和57年3月20日 昭和58年4月1日開館  
施設 鉄筋コンクリート造2階建 延685.67m<sup>2</sup>  
展示室326.54m<sup>2</sup> 収蔵庫103.22m<sup>2</sup> 他  
開館 9:00~16:00 (土曜日は正午まで)  
休館日 日曜日・祝日・12月28~1月4日  
入館料 無料



特色 1階展示室の「米づくりと昔のくらし」は、田の耕作・稲刈り・農家のくらし・穀糧・わら細工・田植と稲こき、の各コーナーに分類し、関係資料を中心に理解しやすく展示。

2階「郷土の歴史とくらしの道具」は、遺跡と出土品・条理遺構・郷土の偉人・古文書学校の沿革・くらしの道具、に区分して展示し、郷土の歴史と文化が一目で理解できる様に成っている

これらの資料は、大部分が地元の方々の協力に依るもので、郷土資料館としての特色を充分に満すものである。



### 三河武士のやかた家康館

所在地 〒444 岡崎市康生町561番地（岡崎公園）内

電話 <0564>24-2204

交 通 名鉄東岡崎駅より徒歩15分 名鉄バス「康生 経由大樹寺行」殿橋バス停下車 徒歩5分  
国鉄岡崎駅より国鉄バス「新豊田行」殿橋下車 徒歩5分

沿 革 天下統一を果たした徳川家康と彼を支えた三河武士の歴史を展示し、またそれに関連する歴史資料を収集・保管する施設として岡崎城二の丸跡地に開設されました。

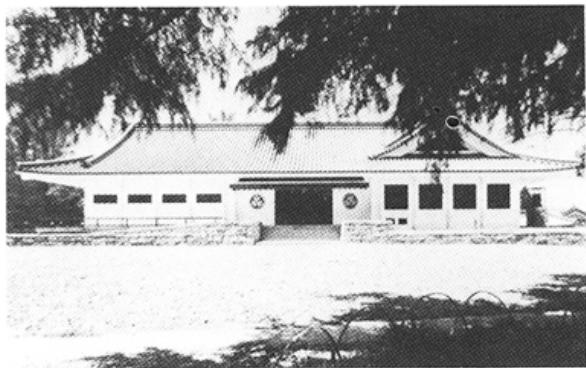
設 立 昭和57年11月3日

施 設 建築延面積1,648m<sup>2</sup> 延床面積1階777m<sup>2</sup>  
地階871m<sup>2</sup>

開 館 9:00~17:00（入館は16:30まで）

休館日 12月29・30・31日の3日間

入館料 大人300円 小人150円（団体割引あり）



特 色 当館は、岡崎城二の丸跡地に史跡公園としての景観をそこなわぬよう入母屋造りの建築様式をとり入れて建てられました。

地階は、三河武士の歴史を理解するための常設展示室、1階は年4回ほどのテーマ企画

を催す特別展示室になっております。

収蔵品は、岡崎藩主をつとめた本多家からの重要文化財を含む寄託品約400点を中心に、旧岡崎藩士に関わる武器・武具・絵面・古文書等を収蔵しています。



### 碧南青少年海の科学館 碧南海浜水族館

所在地 〒447 碧南市浜町2番3

電話 <0566>48-3761

交 通 名鉄三河線 碧南駅下車 15分（衣浦臨海公園内 プール 体育館 野球場隣接）

沿 革 愛知県の地域文化広場整備要綱に基づき、県と碧南市の共同事業として整備された多目的複合施設である。

海の科学館は、三河の海と川にかかわりながら発展してきた本市の歴史と未来の展望を中心に当方の自然の紹介啓蒙を主題としている。水族館は、三河の海と川に生息する水族を中心に展示するとともに、「ウミガメの一生」など自然保護の啓蒙を目的としたパネル展示等も行っている。

設 立 昭和57年3月10日 昭和57年7月4日開館

施 設 敷地120,000m<sup>2</sup>

●科学館—建築面積707m<sup>2</sup> 延面積1,105m<sup>2</sup>  
(1階617m<sup>2</sup>・2階488m<sup>2</sup>)

●水族館—建築面積1,432m<sup>2</sup> 延面積1,858m<sup>2</sup>  
(1階1,266m<sup>2</sup>・2階585m<sup>2</sup>・屋上7m<sup>2</sup>)

開 館 9:00~17:00

休館日 月曜日、月曜日が祝日の場合はその翌日  
(臨海プールオープン中は無休)

年末・年始

入館料 ●海の科学館 無料

●水族館 大人(15才以上)500円(400円)

小人(4才以上15才未満)200円

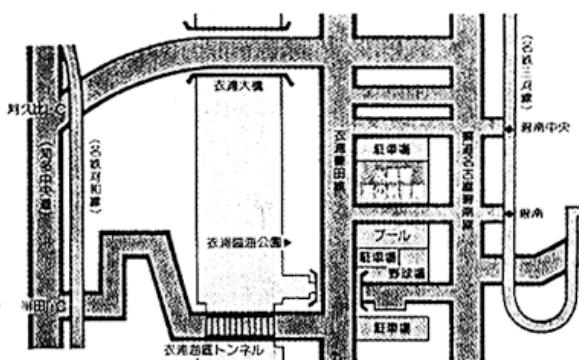
(150円) ( )内団体 (20人以上)



**特 色** 科学館・水族館は、碧南市の臨海総合公園の一角に、伝統産業である三州瓦を使用したスマートな建物として建設されている。

科学館には、衣浦の創始時代、出土品、漁具、漁法の図解、漁具実物約40点、模型船(漁船・運搬船、 $\frac{1}{10}$ ~ $\frac{1}{50}$ ) 9点、航空写真乃びケーブルコントロール式ヘリコプター型TVカメラ、VTR投影、地質サンプル、三河湾の生物(魚・貝・海藻……約170点)スライドによる魚・野鳥・昆虫・植物についての解説。海洋調査機器、ビデオによるクイズコーナー等を展示し、観客が参加し楽しく観覧できるようしている。

水族館には、変形ドーナツ型の大水槽で回遊性魚類を中心に展示。サービス水槽、ふれあいホールに位置する半円柱水槽、曲面ガラスのレンズ効果の楽しい円柱水槽、千満湖を20分周期で再現できる湖間水槽、個水槽等46個の水槽に、250種3,000尾を展示。



## 一宮市教育委員会 博物館建設準備事務局

**所在地** 〒491 一宮市本町通8の11  
市立豊島図書館内 電話 <0586>72-2343  
**交 通** 国鉄東海道本線尾張一宮駅 名鉄名古屋本線新一宮駅下車 徒歩10分  
**設 立** 昭和56年4月1日設置  
**沿革** 当市では昭和35年以来市史編さん事業を継続しており、これまでに全22冊の刊行をみた。この過程で考古学的出土品や古文書、近現代行政文書等の集積が行なわれ、また市教委社会教育課を中心として、民具等民俗資料及び美術品の収集もなされて来た。

こうした結果の上に立って、歴史系博物館を新設すべく、それまでの一宮市立豊島図書館事務局市史編さん係を改組、独立させて博物館建設準備事務局を設立したものである。



### 「愛知の博物館」No.35

発 行 日 昭和58年10月  
編集・発行 愛知県博物館協会  
〒489 愛知県瀬戸市南山口町234番地  
愛知県陶磁資料館内  
<0561> 84-7474